

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	宇治明星園特別養護老人ホーム	階数	地上3F
建設地	京都府宇治市	構造	S造
用途地域	第一種低層住居専用地域 指定無	平均居住人員	60人
地域区分		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 0.0	評価の実施日	2019年5月31日
敷地面積	9,433 m ²	作成者	北川憲行
建築面積	951 m ²	確認日	2019年●月●日
延床面積	2,559 m ²	確認者	〇〇〇

外観パース等
図を貼り付ける場合は
その下の項目を削除して下さい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★ ☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆ 60%: ★☆☆☆ 80%: ★☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 84% (154 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記②以外の: 84% (154 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④上記+: 84% (154 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能: 5</p> <p>Q1 室内環境: 3</p> <p>Q3 室外環境(敷地内): 3</p> <p>LR1 エネルギー: 3</p> <p>LR2 資源・マテリアル: 3</p> <p>LR3 敷地外環境: 3</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 2.9		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.0</p>
LR のスコア = 3.2		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>既存敷地内の限られたスペースでの建替のため、コンパクトに効率的でありながら、豊かな空間が得られるように配慮した。</p>		その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>バルコニー・庇・カーテンの設置により昼光制御を行っている。熱交換型換気設備により居室内の温度環境を改善している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>長寿命の配管材を採用。発電機を設置している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>車寄せロータリー、十分な奥行きのアプローチ庇を設けることで、車のアクセシビリティに配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電設備、高効率機器を採用している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型の衛生器具を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>風致地区条例を遵守し敷地外からの建物屋上部の見え方を詳細に検討した上で修景措置を行った。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される